

研究グループ

マネジメントインホメーションフォーラム静岡

01702180 静岡大学 八巻直一 Naokazu YAMAKI
 01302284 静岡大学 徳山博子 Hiroyuki TOKUYAMA
 01300300 静岡大学 高井英造 Eizou TAKAI

キーワード：OR，経営，防災，データマイニング，ERP

本研究部会は、静岡大学情報学部の徳山博子を主査として、静岡大学と地域の大学、企業の有志を發起人として、以下のような趣旨で発足しました。

1 趣旨

最近の急速な情報化の進展は、社会のあらゆる側面、企業経営、地域行政、教育等に大きな影響を及ぼしつつあります。言うまでもなく、このような情報技術の進展は予想を超えたコンピュータ・ハードウェアとネットワーク技術の急速な進歩によるところが大きいのですが、同時にソフトウェアの発達と利用技術の進歩による場所も大きいといえます。

しかしながら、一方ではコンピュータを真に使いこなすための情報技術と組織や人間との関係については解決されなければならない多くの問題が残されています。また、ソフト技術の一環としての経営科学やオペレーションズ・リサーチについても、多くの分野で適用の余地が残されているにもかかわらず、その実務的な利用あまり進んでいるとはいえないのが現状です。

このような状況をふまえて、企業などの組織の経営と情報技術の接点を具体的な実践に重点をおいて研究する研究会を静岡と浜松を中心として近隣地域の方々も含めて発足させたいと考えました。様々な分野で実践的な仕事に携わっている企業人と先端的分野の研究に携わっている大学の研究者との業際的、学際的な交流の場として活動できればと考えています。具体的な活動としては2カ月に1回程度企業や大学等の方に幅広く実践的なテーマで講演をしていただき、その後で講師を囲んでの懇談を行うことを中心に企画したいと考えています。

2 これまでの研究会開催の記録

第1回研究会

日時：平成10年5月14日（木）13時～17時

場所：アクトシティ研修交流センター

1：「ERPの現状と市場動向」

西嶋陽一 ERP研究推進フォーラム主席研究員

2：「ベンダーによるERP紹介デモ」

最近はやりのERPの実践的解説と、ERPパッケージのデモを行った。解説では、ERPとは、から始まって実際に企業で導入を計画するときの注意点に至るまで、丁寧な説明があった。

デモでは、代表的なパッケージを用いて、分かり易い事例のデモが展開され、ベンダーの作成するプレゼンテーションの見事さもあいまって、圧巻であった。

出席者は約30名

第2回研究会

日時：平成10年7月17日（金）14時～17時

場所：静岡駅ビル「パルシェ」

1：「障害者のパソコン利用とその支援」

板垣 徹 伊豆医療福祉センター

2：「障害者介助システムのための注視点検出法の開発」

海老澤嘉伸 静岡大学

福祉の現場で情報技術、あるいは情報技術者が実際どんな貢献が可能か、ということの答えとして、実行を伴う研究の紹介であった。一同感激。研究者の献身的な姿勢と、ソフトウェア開発の現場から福祉に転身したご本人の姿勢に、涙をながす聴衆さえあった。

出席約30名。

第3回研究会

日時：平成10年11月5日(木) 13時～17時

場所：アクトシティー研修交流センター

1：「企業におけるORの実践」

熊本和浩 住友金属工業(株)

2：「ビジネスプロセス分析教育の一事例」

徳山博子 静岡大学

企業のOR部門が、実際に企業内でどのように活躍しているか、実例を挙げて解説があった。また、そのような現場に対応するためには、どんな学生を育てれば良いか、について実験的授業の紹介があった。実際のOR実践現場の、生々しい事例紹介に続いて、では学生にどのような教育を施せばよいか、という答えも模索するという、実に筋書きのよく見える講演であった。

出席約30名。

第4回研究会

日時：平成11年3月10日(木) 13時30分～17時

場所：クリエイト浜松

1：「ソフトウェアハウスの経営と科学的人事評価」

八巻直一 静岡大学

2：「インターネット時代の企業経営」

尾さこ博之(おさこ ひろゆき) 日立情報システムズ

人事評価へのORの適用事例と、これからの世界を見通して、企業経営のあるべき姿を予見した経営者の講演があった。とくにこれからの企業のあり方についての講演は、講演者が長年情報技術の最先端

部門の中心で活躍された経験を背景にしているだけに、迫力のある講演であった。

出席約30名。

第5回研究会

日時：平成11年7月9日(金) 14時～17時

場所：パルシェ

1：「防災情報システムの研究」

湯瀬裕昭(ゆぜひろあき) 静岡大学県立大学

2：「データマイニングとデータビジュアライゼーション」

加藤博己 富士通ソフトウェア生産技術研究所

阪神淡路大震災の実態を調査し、災害時の情報システムのあり方を示し、かつプロトタイプシステムを構築した研究発表と、データマイニングの最近のソフトウェアの解説があった。一同目からうろこであった。防災情報システムは、実際の災害時にこそ役に立つ必要があるのだけれども、有事にのみ使用するのではだめで、平常時に使用しているシステムが、災害時にそのまま活躍しなければならない、というところには説得力があった。また、データビジュアライゼーションの最新ソフトは、驚くべきものであった。すぐほしいという聴衆が次々に現れたほどであった。

出席約30名。

3 今後の予定

本年度はあと2回程度研究会を予定しています。そのなかには、企業見学も是非計画したいと考えています。本研究グループは、経営工学会にも登録された複合型研究グループですので、本来的な意味で、ORと経営工学との融合を図るにはどのような方法があるか、模索したいと思います。

現在の常時出席者は、約30%が大学教官、約30%が企業人、約30%が学生で構成されています。しかし、学生諸君による発表はまだありませんので、学生諸君の新鮮な研究発表も、是非活発に行いたいと考えております。